

1年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なことや経験したことを題材にし、相手に分かるように話す。</li> <li>発表している人を見て、聞くことができるようにする。</li> <li>鉛筆の正しい持ち方を身に付け、正しい字形、筆順を習得する。</li> <li>様々な文章を読むことで、末尾の表現の仕方を身に付ける。</li> <li>文章に自分の考えを書き表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「声のものさし」を掲示し、その場に応じた声の大きさを意識できるようにする。また、発表をした時、聞いてもらう喜びを感じさせる。</li> <li>年間を通じて、視聴覚教材を活用して正しい鉛筆の持ち方の指導を継続する。家庭とも連携し、常時、正しい字形や筆順について確認させ、定着を図る。</li> <li>文章を読み返す活動を継続的に取り入れ、自ら間違いに気付き、直す活動に取り組む。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをわかりやすく伝え、話の終始ができる。</li> <li>計算処理に個人差が大きくなるように、正確に計算する。</li> <li>文章題の題意や正しい立式をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートの書き方を工夫したり話形を理解したりする。</li> <li>10の合成・分解を繰り返し練習したり、視聴覚教材で具体的な操作を提示したりする。また、自らブロックを操作し、10のまとまりを捉えさせ、計算処理の定着を計る。</li> <li>数の関係を図や言葉で表せる方法を身に付けさせる。また、考えた式を共有する機会を設け、様々な方法で表現・処理する手段を提示する。</li> </ul>	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然に目を向け、成長し変化していく不思議さに気付く。</li> <li>自然の物を使って工夫して遊ぶ。</li> <li>活動や体験を言葉や絵で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の不思議さや面白さを体験できる活動を充実させたり、視点を設けて観察や活動をさせたりし、自然への気付きを深める。</li> <li>計画的に気付いたことや見付けたことを伝え合う活動を取り入れる。</li> <li>電子黒板等で児童の考えを提示し、互いの気付きや考えを共有する。また、個人の観察カードなどの掲示も行い、気付きの共有化を図る。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と関わりながら、音楽活動に楽しく取り組む。</li> <li>繰り返し練習し、鍵盤ハーモニカの基本的な奏法を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム活動、身体表現の活動を充実させて、音を聞き合い、音楽活動する。ペア活動で友達と関わりながら活動したり、どのように声掛けするとよいか、話型を示して活動する。</li> <li>個別指導を中心に、手の形、指番号を覚え、音楽の流れにのって演奏する。スモールステップで学習できるよう、教材を難易度別に数パターン用意して、すすんで学習する。</li> </ul>	
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>描いたり作ったりする活動を通して、意欲的に活動し、互いに交流することができる。</li> <li>のり、はさみ、クレパスなど、基本的な道具の使い方を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の興味関心に応じた題材を選ぶ。</li> <li>道具の使い方が身に付く課題を用意する。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の特性に応じた運動を繰り返し行い、技能の定着を図る。</li> <li>学習の振り返りと、それによる課題から次回のめあてをたてる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スモールステップで学習計画を立てる。</li> <li>I C T機器を効果的に活用し、自分の動きを見て、視覚的に捉えさせる。</li> <li>毎時、「めあて→取り組み→振り返り」という学習手順を提示する。</li> </ul>	

2年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動にすすんで取り組み、様々な種類の本を読む児童が多い。描写における登場人物の心情を読み取れる傾向が高い。</li> <li>・すすんで話し合いに取り組み、自分の言葉で話す、話したいことを厳選し、発表することに苦手意識をもつ傾向にある。</li> <li>・話している人の方を見て聞いたり、傾きながら聞く経験が少ない。</li> <li>・自分が書きたい事柄を明らかにして、文章に表すことが難しい児童が多い。</li> <li>・正確な書き順を身に付けておらず、罫線を活用しないとまっすぐに文字を書くことが難しい児童が三分の一である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な図書館利用を実施したり、読み聞かせ活動を行ったりする。</li> <li>・自分が考えていることをペア学習で伝え合い、会話のキャッチボールを向上させる。</li> <li>・グループで話し合う手順や留意点について学習し、演習させ、話し合う手順を理解させる。</li> <li>・話を聞く姿勢を指導する。指導者も話す内容を綿密に考え厳選して伝える姿を見せる。</li> <li>・短い言葉で書いたり、順序を表す言葉を習得して書いたりすることで、短文を書く活動に慣れ親しませる。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り下がり、繰り上がりの筆算では、10のまとまりを意識して計算をすることが課題である。</li> <li>・長さの単位（mm, cm）及びかさの単位（ml, dl, l）の単位換算を解答することが難しい。</li> <li>・量の大きさを表すのに適切な単位を選ぶことが苦手な児童が多い。</li> <li>・問題の答えを導き出すことはできるが、答えの導き方を表現することが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活において、算数的活動に取り組みせ、10や100などのまとまりを意識させたりする。</li> <li>・単位換算では、単位のいくつ分という測定の基礎・基本を基に考えさせる。</li> <li>・図や表を用いて答えの導き方を表現できるようにする。既習事項を思い出させたり、大事な数や言葉に注目させ考えを表現させたりする。</li> </ul>	
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。</li> <li>・野菜を育てる活動を通して、水やりや収穫をしたりする中で、生命への優しい気持ちや愛情が育っている。</li> <li>・考えたこと、気付いたことを絵や文で表現することができるが、その表現力には大きな個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え合う活動の際、主に国語科とのカリキュラム・マネジメントを行う。順序を表す言葉や習った接続詞や文章構成を用いて文章を書く活動を行ってから伝え合う。</li> <li>・気付きの質を高めるために、個→グループ→全体などで気付きを共有する。また、個人の気付きや表現に生かす学習過程を工夫する。</li> <li>・児童の気付きを教員が価値づけし、良さを全体に知らせる。</li> <li>・他教科と関連させ、思考や気付きを表現するための語彙を増やす。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の感じをつかみ、自分の心地よい声で歌うことができる技能</li> <li>・タンギングを使って、息づかい良く鍵盤ハーモニカを吹くことができる技能</li> <li>・身近で簡単な楽器に親しんだり、リズム譜を見て曲調に合わせて演奏をしたりすることができる技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な型（ペア・グループ）で交換歌唱を行い、児童自身が「無理のない声」を身に付けさせる。</li> <li>・様々な楽曲を階名で歌ったり、手拍子でリズムや曲調をつかんだりして、歌唱したり演奏したりする興味や関心を高めさせる。</li> <li>・鍵盤ハーモニカで吹く前に、階名を口で「トゥ」と発声する。</li> </ul>	
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本的な道具（のり・はさみ・クレパス・水彩絵の具・カッター）の使い方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材設定時に、使用する道具や材料の目的やねらいをはっきりとさせ、スモールステップで取り扱いを身に付けられるよう展開を考える。</li> <li>・発達段階や能力に応じた個別の声掛けをし、個々の基礎基本の定着を図る。</li> <li>・掲示物や電子黒板を活用して視覚的にも分かりやすい工夫をする。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に運動するために、ゲームのルールを理解し、友達と協力して楽しむことができる態度を育てる。</li> <li>・学習のめあてに向かって、自分の動きや運動について友達の姿を真似たり、伝えたりすることができる思考力を身につけさせる。</li> <li>・投げるや蹴るなどの用具を使った技能の向上が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用し、図や映像を使って視覚化を図る。</li> <li>・タブレット型パソコンを使用して、運動や動きを撮影し、動きを捉えさせる。</li> <li>・ボール以外の用具（玉入れの玉など）を活用したり、運動を細分化した動きに取り組みさせる。</li> <li>・遊びや体づくり運動を単元計画に取り入れ、運動に親しむ経験を積み重ねる。</li> <li>・ゲーム型の単元ではチームのめあてや作戦を立てさせ、皆でゲームを楽しんだり、ルールを守って勝敗を受けとめたりできるような体験をさせる。</li> </ul>	

3年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>習った漢字を文や文章の中で適切に使わずに、ひらがなで書いている児童が多い。</li> <li>自分の書いた文章を読み返す習慣が身についておらず、自ら間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめられない傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文指導やノート指導の際に習った漢字を使っていない児童に指導する。</li> <li>平仮名の一文を漢字を交えて変換する活動を取り入れる。</li> <li>作文活動を行った際に微音読で読み返す活動を取り入れる。</li> <li>友達同士で読みあい、感想を述べる活動を取り入れ、友達の文章を読んで、文章のつながりで良いところを見つけられるようにする。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや表から必要な情報を読み取ることが難しい児童が多い。</li> <li>調べたことを新聞やパンフレットに分かりやすくまとめ、端的に表現する経験が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み取る内容をはっきりさせ、発表の際には表やグラフのどこに根拠があるのか示しながら説明する。</li> <li>新聞やパンフレットのひな形を用意し、基本的なまとめ方を身に付けさせる。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>加減乗除の筆算の手順通りに計算することが十分とは言えない。</li> <li>四角形や平行、垂直の定義を知り、コンパスを用いて正しく作図する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットドリルを活用し、何度も繰り返し問題を解かせる。</li> <li>チャレンジタイムで、「四角形を調べよう」の内容に繰り返し取り組み、定着を図る。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心に応じた話題を取り上げ、様々な分野について意欲をもって取り組む。</li> <li>分担や役割を明確にし、グループで協力して実験や観察を行う。</li> <li>既習事項を確実に身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元導入時、単元全体の見通しをもたせ、主体的に学習問題を設定し、解決したいという意欲をもたせる。</li> <li>実験や観察の前に、方法やグループ全員の役割、順番等を確認する時間を設定し、確実に全員が問題解決の方法を共通理解できるようにする。</li> <li>小テストを行い定着度を確認し、定着度の低かった事項については繰り返し指導する。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想を感じ取り、楽曲に合った歌い方や演奏の仕方を考えて活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想に関する言葉（柔らかい感じ、力強い感じなどの語彙）を増やしていけるよう、楽曲ごとに確認し、曲想に関する言葉を使いこなせるようにする。</li> <li>どの楽曲も同じ歌い方ではなく、曲想を感じ取って歌い方を工夫できるよう、表現の技術を向上させる。</li> </ul>	
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>水彩絵の具で着彩する時に、意図して水加減の調節を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水彩絵の具を使う際には毎回水の加減の仕方や雑巾の使い方を振り返る。道具の確認を行う。机間指導で個別に声掛けをし、意識付けと技能の定着を図る。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>「投げる力」を伸ばすため、補助運動でボールの操作や道具に使う方に慣れ、特性に応じた運動をする。</li> <li>ゲームの結果をもとにチームの課題や特徴を考え作戦を立てる。</li> <li>勝敗に対する公平な態度を身に付け、ゲームの結果を受け入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールや道具の正しい操作の仕方を指導するとともに、運動量を確保し、技能を習得する時間を設ける。</li> <li>ゲームごとに作戦を立てたり、振り返ったりする時間を確保する。</li> <li>仲間と運動する楽しさや相手がいることを意識し、他者を尊重する心を育む。</li> </ul>	

4年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接続語に注意して登場人物の心情や情景を照らし合わせて読み取る。</li> <li>・構成メモを活用して、自分の伝えたいことを明確にして文章を書く。</li> <li>・自分の書いた文章を推敲する。</li> <li>・既習漢字を確実に身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を書く前に「構成メモ」表を作成し、表を基に文章を書く作業を定着させる。</li> <li>・ペアやトリオで文章を読み直し、記号を用いて文章を添削する。</li> <li>・チャレンジタイムで読み・書きの反復練習を行う。</li> <li>・定期的に漢字テストを実施し、習熟を図る。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から読み取ったことを関連付けて考える。</li> <li>・既習事項を確実に定着させる。</li> <li>・区市町村の大まかな位置や文京区周辺の区の位置関係を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を使い、読み取る視点を明確に提示する。</li> <li>・既習事項の確実な定着のために、チャレンジタイムに既習内容を定期的に取り入れる。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わり算の筆算を正しい手順で行う。</li> <li>・四角形や平行、垂直の定義付けや、コンパスを用いて正しく作図する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットドリルやデジタル教科書の練習問題を活用し、授業の初めに定期的に何度も繰り返し問題を解かせる。</li> <li>・チャレンジタイムで、「四角形を調べよう」の内容を扱い、復習させる。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の興味・関心のない分野についても意欲をもって取り組む。</li> <li>・グループで協力して安全に実験や観察行う。</li> <li>・既習事項を確実に身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元導入時、単元全体の見通しをもたせ、児童自らがめあてを設定し、解決したいという意欲をもたせる。</li> <li>・実験、観察時にグループ全員が必ず行うことにする。</li> <li>・実験の目的、結果を考察をまとめさせ、確実に習得させる。</li> <li>・単元途中で、知識定着小テストを行い定着度をチェックし、それを踏まえた後、理解度の低かった事項については繰り返し指導する。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・息遣いや口の開け方に気を付けて歌い、自然な発声で仲間と調和する歌声で歌う。</li> <li>・リコーダーの学習では、やさしい息遣いやタンギングをして、きれいな音色で演奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高音部の発声で口を大きく開けて響きのある歌声を目指して歌ったり、友達と歌声を聴き合ったりして、音の重なりを聴き合って合唱する。</li> <li>・リコーダーのやさしい息遣いが定着するよう、既習曲の復習や個別指導により、技術の習得度に対応した自主的な学習をしながら、基本的な奏法を身に付ける。</li> </ul>	
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想を広げて自分の思いを形にする意欲を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材設定時につくるものの一定の枠組みを設ける。そこに自分だけの発想を付け加えていくという展開にすることで、ゼロから発想をするというハードルを取り払い、少しずつ発想を広げる楽しさを感じられるようにする。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールに触れる時間を確保することで、ボールを捕る、投げる、突くなどの技能が8割の児童に身に付いている。</li> <li>・作戦通りに取り組んだり、チームで協力して取り組む経験が少ない。</li> <li>・勝敗に固執する児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールや道具の正しい操作の仕方を指導するとともに、運動量を確保し、技能を習得する時間を設ける。</li> <li>・ゲームごとに作戦を立て、振り返りをする時間を確保する。また、タブレット端末を使って、自分たちの動きを見たり、手本の動きを見たりできるようにする。</li> <li>・仲間と運動する楽しさを実感させたり、相手がいることで取り組めるというゲームの重要性に気付かせたりすることで、他者を尊重する心を育む。</li> </ul>	

5年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文の、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える。</li> <li>・主語、述語、形容詞を正確に捉えること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の相互関係から、人物像やその役割を捉え、内面にある深い心情も合わせて捉えさせる。また、情景を通して暗示的に表現されている場合もあるため、表現の仕方にも気をつけられるよう指導する。</li> <li>・日頃から文の構成に着目させ、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「なぜ」を意識させる。チャレンジタイムを活用し、繰り返し復習に取り組ませる。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けていない。</li> <li>・基本的な地域の名称・位置に関する知識を身に付け、地図や地球儀を活用するスキルが身に付いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計資料は児童の視点を絞って読み取ることができるように発問を工夫する。またグラフのタイトル、縦軸、横軸、単位を丁寧に解説する。</li> <li>・等高線地図や産業の分布図などを比べるなど様々な地図を重ね合わせて考察する活動を通して、名称や位置の知識を身に付ける。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習場面から見いだした問題を、式、計算などを用いて解決することはできる児童が多いが、数直線や図にして表し、なぜこのように立式したかを論理的に述べられる児童に限られている。</li> <li>・小数の割り算の余りや概数で解答する問題に誤答が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの解決方法だけでなく、様々な解決方法を考察し、少人数で説明する活動を通し、説明することに対する抵抗感を減らす。また、論理的に述べやすくするナンバリングなどの説明の型をノートに記させるようにする。</li> <li>・チャレンジタイム等で繰り返し、計算練習を行って行く。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件制御を適切に行い、実験をするとともに、因果関係を見つけ、考察を文章に記せない。</li> <li>・経験や既習事項から予想や仮説を基に、解決の方法を見出すことができる児童に限られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考察に関しての書き方「・予想と比べてどうだったか。・予想と違っていた理由はなぜか等」を示し、文章にして、論理的に考えられるようにする。</li> <li>・既習事項について、ICTを活用し、単元の前に提示する。これをもとに仮説を書く活動を随時行う。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を感じ取り、思いをもって歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲の選曲にあたっては、児童の実態に応じた歌の世界観を大切にして単元構成し、歌詞の内容から自分の経験等を思い起こして歌えるよう、ワークシート等工夫したり、楽譜に書き込みをしたりして歌唱活動に取り組む。</li> </ul>	
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信を持って自分の表したいことに取り組む。</li> <li>・自分の表現したいことに合わせて技法を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞の時間を設け、表現は優劣ではなく異なる世界観の現れであることを知る。</li> <li>・自ら技法を選べる題材設定を行うことと、失敗してもやり直しができる材料や道具を用意し、失敗とチャレンジの経験を積む。</li> </ul>	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活や体験を想起し、身近な家庭生活の状態から課題を考える。</li> <li>・調理や裁縫の基本的な操作や方法を身に付け、家庭生活で活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の生活経験を題材にし、主体性を養わせる。自らの生活を記録する活動を通し、課題をもつ。</li> <li>・児童の実態を把握し、それに即した課題を提示する。また、ICT機器を活用し、基本的な技能を視覚的に捉えさせ、児童全員に確実に身に付ける。また、繰り返し活用できるように授業の計画を立てる。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の特性をつかみ、練習の場を工夫して運動する。</li> <li>・約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたりし、適切に運動をする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を用いて、技の特性などを視覚的に捉えさせたり、動画記録から技の到達度を児童が把握できたりできるようにし、積極的に運動に取り組めるようにする。</li> <li>・めあてやルールを掲示し、いつでも確認できるようにする。授業の終わりに振り返りの時間をもち、仲間を認め合う態度を養う。</li> </ul>	

6年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落相互の関係や登場人物と情景を照らし合わせて読み取る。</li> <li>・感情表現を表す言葉を用いて、起承転結の整った文章を書く。</li> <li>・既習漢字を確実に定着する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述をもとに、シンキングツールを活用して登場人物の心情について話し合い、読み取れるようにする。</li> <li>・作文用紙に書く前に、イメージマップ等を用いて事象と自分の気持ちを区別し、「はじめ・中・終わり」で文章を書く。</li> <li>・チャレンジタイムや単元終末で読み・書きの反復練習を行い、定期的に漢字小テストを実施し、習熟を図る。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の資料から読み取ったことを関連付けて考える。</li> <li>・既習事項を確実に定着する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み取る視点を明確にして資料を読み取り、それらを電子黒板に提示し、比較して考えをまとめる学習活動を適宜取り入れる。</li> <li>・既習事項の確実な定着のために、チャレンジタイムでベーシックドリル、計画的な小テストを実施する。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題を正しく立式して解く。</li> <li>・様々な解決方法があることに気付き、その都度速く正確にできる方法を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題意を正確に掴むために、図や表などを用いて協働的に学び合う時間を設定する。</li> <li>・課題に対する様々な解決方法を紹介し、それぞれを比較し、利点などを確認する学習に取り組む。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果を正確に書くことができる。結果をもとに分かったこと（考察）を自分の言葉で書き表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果と考察を書く時間を十分に確保する。また結果と考察を別々に板書することで、表現の違いに気付くよう指導する。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を感じ取り、思いをもって歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲の選曲にあたっては、児童の実態に応じた歌の世界観を大切にして単元構成し、歌詞の内容から自分の経験等を思い起こして歌えるよう、ワークシート等工夫したり、楽譜に書き込みをしたりして歌唱活動に取り組む。</li> </ul>	
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに合わせて表現技法や、道具・材料の使い方を工夫できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にとって身近でつくるもののイメージを持ちやすく、かつ広い表現の幅を受け入れられる題材を設定する。</li> <li>・個々のつくりたいイメージを把握し、制作中に細目に声掛けを行い支援する。道具の使い方以外の制作方法については一人一人の意図を大切にする。</li> </ul>	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活に興味関心を持ち、主体的に学習する。</li> <li>・自分の家庭生活と併せて考えたり話し合ったりすることを通して、実践に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提示では児童の生活経験から題材化し、主体的に学習に取り組む意欲を喚起する。</li> <li>・ICT機器を活用し、基本的な技能を視覚的に捉えさせ、児童全員に確実に身に付けさせる。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試しのゲームの結果をもとにチームの課題や特徴を考え作戦を立てる。</li> <li>・チームの学習では、認め合ったり、励まし合ったりすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームごとに作戦を立てたり、振り返ったりする時間を確保する。また、タブレットを使って、自分たちの動きを見て、よくできているところと課題を協働的に理解して、作戦や練習を改善できるようにする。</li> <li>・授業終末で、具体的に技能・技術を賞賛し、モデル化することを通して、認め合うポイントを共有させていく。</li> </ul>	